愛媛大学

瀬戸内の山～里～海～人がつながる環境教育（現代的教育ニーズ取組支援プログラム・2006年度）

地域に出向き環境問題を発見しグローカルな視点から
その解決に取り組める知識と技能をもつ指導者を育成

愛媛大学農学部 森林教育研究室
小林 修 講師
ICU高校卒後、北海道の自然にほれ込んで北海道大学農学部林産学科に入学、同大学院博士課程を修了し農学博士となる。樹木の成長要因を年輪で分析する樹木年輪年代学が専門。国内の森林のほか、ヒマラヤやゴビ砂漠を研究フィールドとする。森林の素晴らしさを訴える森林教育活動を続けている。

地球環境および人類の生活環境が危機的な状況に直面している現在、社会の基本要素ともいえる自然、社会・文化、経済各領域の持続性を達成していくためには、もはや社会システムの一部に限られた制度改革や技術革新だけでは十分ではなく、社会を構成するすべての人びとのライフスタイルに対する意識の変化を促すことが切に求められています。

このような背景の中で、持続可能な社会づくりのための教育（ESD）は、社会を構成する一人ひとりが、環境との関係性の中で生きていることを意識しながら、地域の特性を生かした自然、社会・文化、経済のバランスがとれた持続可能な社会づくりに参画するための教育として重要視されています。

この社会の強いニーズに応えるため、愛媛大学は、多彩な風土環境を有する愛媛の山～里～海を舞台にした環境ESD指導者養成カリキュラムを展開し、学生が主体的に関わる学習機会を提供することで自ら考え行動する学生の育成を目指しています。また、こうした環境教育を通じESDに関わる人材の育成をはかるとともに、地域の人的ネットワークの構築を通して持続可能な社会づくりを推進する取組を行っています。

愛媛大学環境ESD指導者養成カリキュラムは、様々な事象を科学的に読み解く力を育成し、主体的に地域に出向き、地域レベルから地球規模の環境の諸問題について自ら気づき、グローカル精神に基づいて多角的に考察しながら問題の関連性を導き出し、その解決に取り組むことのできる知識と技能を身につけた指導者を育成することを目標としています。

このカリキュラムを通して、愛媛大学は環境ESDに関する知識・技術を教授し、環境ESD活動の推進者として適切な能力・識見等を有すると認めた者に本学独自の愛媛大学環境ESD指導者資格を授与します。本取組を通して育成する指導者には、地域のさまざまな意志決定レベルを通して問題の解決に向けて積極的に働きかけ、環境教育をとおして自然、社会文化、経済の持続性達成に寄与することが期待されています。

自然に関する知識、コミュニケーション力などを身につけ、環境情報などを発信する大学新聞を立ち上げる

愛媛大学教育学部 2回生
母里有紀子（ぼりゆきこ）さん

兵庫県立東播磨高等学校出身。高校時代新聞部に所属。情報やマスメディアに関われるということで教育学部情報文化課程を選ぶ。大学でも新聞部を立ち上げESDの情報などを発信している。

美しい愛媛の自然を守りたい

愛媛大学の教育学部情報文化課程に入学したのは、高校時代数学が好きだったこと、新聞部に所属して人間や社会に関心があったことの両方を満足させてくれるところだったからです。

ESDを受けることになったのは、大学１年生の夏に愛媛県愛南町という田舎の町で映画撮影のアシスタントをしたことがきっかけです。映画は愛媛県の美しい自然を舞台にした戦争と高校生の話で、そこで出会った町の人や撮影スタッフの方々と環境保護や地方の街のあり方などの話をするうち、美しい環境を守るにはどうすればいいかを考え始めたのです。

ESDは、１年次では自然体験が不足している学生が多いことを考慮して、山、海、里のそれぞれのフィールドの特性を知り自然体験を積むプログラムが多く設置されていました。

２年次では講義の一環としてフィールドワークが入っており、愛媛県北条市の海や愛媛大学農学部附属の演習林、附属農場などに行き、漁船に乗ってプランクトンを採集したり、農場でカキの剪定をしたりジャンボタニシを食べたり、山に行って砂を運んだりとたくさんの経験をしました。

授業時間だけではどのグループも時間が足りず、休日や放課後に集まったり、先生の研究室を訪ねて質問したりしました。また、この授業に科目等履修生として参加している社会人の方々と、共に活動をしていくという貴重な経験をすることができました。

新聞部を作り環境情報などを発信

大学新聞部を作ったのは、こうした授業で刺激を受け、同じ気持ちの仲間に出会ったからです。愛媛大学には新聞部がなく、学生の側から情報を発信する媒体が必要だと思ったのです。

新聞では、環境ESDに関する情報や、指導者養成講座で知り合った友人達が活動しているプロジェクトの様子なども取材し掲載しています。今のところ部員は10名で、新しく頂いた部室を留学生の支援・交流のスペースとして活用する方法なども検討しています。

授業に参加して、環境を守ってゆこうと考えている同世代の多くの友人と出会えました。これから社会に出てからも、ここで培った知識、コミュニケーション能力、人脈を有効に活用していきたいと思っています。

自作の環境学習ゲームをテストしている

里山で調査用の籠を背負って野鳥観察をしている

河川清掃の実践活動でゴミを収集している

フィールド調査の結果を発表する母里さん

多方向での学び、フィールドワークの面白さを体験
四国の環境団体をネットワークしたＮＧＯを立ち上げる

愛媛大学農学部2回生
磯部高弘さん

愛媛県立八幡浜高等学校出身。愛媛大学はオープンキャンパスの雰囲気が気に入ったため、農学部は夢で見た美しい自然を守るために選択。環境活動家のネットワークのために四国青年環境ＮＧＯ［ＨＯＰＥ」を立ち上げ代表を務めている。

フィールドワークで自然を体感

愛媛大学環境ESDの特色は、多方向での学び合いができるようになっていることです。例えば少人数でグループをつくってディスカッションをしたり、プレゼンを行ったりと、先生から学生、学生から先生だけでなく、学生同士がお互い学びあうことができるのです。

そして何よりすばらしいのは実際に外に出て自ら体験する、フィールドワークがあることです。受け身の、一方通行型なものが多い１・2回生の講義の中では、フィールドワークはすごく新鮮で楽しく、授業は「みんなでつくっていく」ものということが実感できました。

ESDの授業の中で特に印象が強いのは、大学付属の演習林での実習です。演習林に入って、樹木や草本の分類や生態、森林で暮らす生き物について学ぶものですが、自然っていいなあと改めて感じることができました。

同じ夢を持つ仲間と手をつなぎたい

ESDに参加して、環境問題に関心がある人やサークル、団体が数多くあることを知りました。しかし四国ではまだまだそれらは単独で活動していて全体として大きな力となっていません。せっかく同じ方向を向いているんだから、それらをネットワークしなきゃ！そんな思いでこの春立ち上げたのが、四国青年環境ＮＧＯ「ＨＯＰＥ」という学生主体の環境団体です。

まだまだ駆け出しですが、四国が「サステイナブルな社会」になるためにこれから全力を注ぐつもりです。そして四国から日本、そして世界へとはばたける団体にしていきたいと思っています。

この授業に参加したことで、自分の将来の方向が定まりました。それは日本一の環境教育者になることです。

今、これだけ環境問題が世界中で叫ばれている中で、私たち新時代の担い手がすべきことはとてもたくさんあります。何が正しいのかわからない不透明な時代。自分の信じた道をしっかり歩みたいと思っています。

松山市の水源林で調査を行っている

松山市の水源林での講義（小林先生）

グループワークでアイスブレーキング手法を体験している

学習成果を発表する磯部さん